

県高P連会報

第 108 号
2013.2

編集発行

富山県高等学校PTA連合会

発行人 会長 毛利一朗

富山市千歳町1-5-1

富山県教育記念館41号

TEL 076(432)2810

FAX 076(432)1501

平成24年度県高P大会・指導者研修会開催される

平成24年度富山県高等学校PTA大会・指導者研修大会が10月23日、名鉄トヤホテルで開催されました。

開会式では、毛利一朗会長から「今年度は7月に高P連北信越地区研究大会富山大会があり、その後北信越高校総体の4競技、8月には全国高校総合文化祭が県内で行われた。開会式や演劇では高校生が無数の可能性を感じることができ、演技等のレベルの高さに感動した。

私は、現在、全国高P連の進路対策委員長を務めているが、委員会では進路に関する意識調査や就職支援事業等に取り組んでいる。キャリア教育などの面で、PTAの協力やいろいろな工夫が行われることは大切だと思っている。今後も、

家庭で子どもたちを温かく見守っていたきたい。」との挨拶がありました。

次に来賓の寺林敏郎教育委員会教育長

より「日ごろから本県高校教育の充実、振興、青少年の健全育成などに多大なご

貢献を賜っている。8月の全国高総文祭とやま2012には延べ24万人の大会関係者や観覧者に参加してもらい、大成功を収めることができた。高校生たちは爽やかな礼儀正しい態度や挨拶でもてなしの心を発揮し、「人と文化が輝く元気

とやま」を発信してくれた。2012北信越かがやき総体の熱戦、成功も、保護者の皆様に支えてもらったおかげと感謝している。生徒たちは今後の人生の糧となる貴重な経験をしたのであり、それらのことを学校教育活動に生かしてほしい。本日は有意義な研修となることを期待し、あわせて本県教育への支援をこれからもお願いしたい。会員各位の健勝、発展を祈っている。」と祝辞をいただきました。

つづいて「活力あるPTA活動をめざして」をメインテーマに、4校のPTA

から研究発表が行われました。

一 SPTA（生徒・保護者・教職員）懇談会の充実をめざして

呉羽高校PTA会長

森本 俊明

二 家庭や地域と共に育てる教育環境の充実を目指して～東日本大震災のボランティア活動を通して～

氷見高校PTA副会長

圓山 留美

三 キャリア支援のためのPTA活動

―本校における取り組み―

南砺福光高校PTA会長

日西 孝明

四 つなげよう！ひろげよう！ふれあい交流！地域に関わる活動を通して！

富山総合支援学校PTA会長

前坂 陽子



発表を終えて質問に答える発表者

午後からの全体討議では、各発表校が取り組んだPTA活動への質疑応答や意見交換が行われました。

その後、助言者の齋藤幸江生涯学習・文化財室家庭成人教育班長と山崎弘一富山高校長から講評をいただきました。

齋藤班長は「いずれの実践も、各学校の校風と地域の特色を活かした課題について、工夫を凝らした活動であった。

保護者が積極的に懇談会やキャリア支援、ボランティア活動などの学校行事に関わることで、家庭では見られない、子どもたちの生き生きとした姿を見ることができ、また子どもたちも親の頑張る姿を見て親に対する信頼を深める学校と家庭の絆づくりに大きな力を発揮する取組みであった。支援学校の取組みでは、子どもたちが社会に出たときの力強い後ろ盾になると思われる。ネットワークがさらに広がることを願う。」と助言されました。

また、山崎校長は「PTAは、アメリカにおいて、母親による我が子への愛護からスタートしたものであるが、父親、学校、教師も協力する必要がある、ここからPTAが誕生した。日本では国からの働きかけから生まれたものであるが、学校週5日制によりPTAの役割は益々重要になってきている。今後は、保護者側が当事者意識をもって活動に取組み行事に参加することや、教師側は保護者から学び、専門的資質を高めることが大切である。」と助言されました。

最後に、記念講演があり高岡市万葉歴史館総括研究員の新高秀夫先生が講演されました。

記念講演

演題

「家持の感嘆と芭蕉の憧憬」

—富山の魅力再発見の一助として—

高岡市万葉歴史館 総括研究員

新谷 秀夫氏

◎講演要旨



新谷講師

本日の講演のねらいは松尾芭蕉の「奥の細道」や大伴家持の「万葉集」を通して富山の良さを再発見してもらうことである。

まず松尾芭蕉の「奥の細道」の旅の目的については、松尾芭蕉の記述や、芭蕉の弟子で同行していた河合曾良の日記の記述から次のように推測される。つまり、芭蕉が越中を訪れた時の「奥の細道」に出てくる地名は、ほとんどが万葉集で詠まれた地名であることから芭蕉が富山県を訪問して、万葉集で詠まれた地名（奈古、田子、有磯海、放生津、二上山等）を訪問することが越中に来た目的であると考えられている。次に大伴家持の越中万葉についてであるが、「越中万葉」とは「万葉集」の中で、越中で歌われたか、あるいは越中に関わって歌われた歌のことを指す。大伴家持が越中国守として富山に赴任してきた746年から751年の5年間に歌われた歌で330首になる。万葉集の総歌数は4516首でそのうち越中万葉は約7%だと言うことになる。万葉集では、越中は奈良に次

ぐ2番目に大切な場所である。万葉集は、カルチャーセンターでは今日日本で一番人気があるテーマであるから、今後富山を訪問する万葉集の愛好家が増えれば、富山県の絶好のPRになるので、越中万葉の普及に努めたい。

また、家持は自分の詠んだすべての歌に関して、詠んだ日時・場所、そして誰に対して詠んだもので、そのときの気持ちはどうだったかを記録に残しているのが特徴である。

家持は越中の風土についてもいろいろ述べている。その中でも川についての記述が多い。雄神河（現在の庄川）、鶴坂河、婦負河（現在の神通川）、延槻河（早月川）などを歌にして、越中がいかにかの豊かな場所かを歌っている。また、家持にとってはホトトギスが立夏を過ぎても鳴かないことを恨んで詠んだ歌もあり、ホトトギスが家持にとって大切な存在であったことがわかる。「立山に降り置ける雪を常夏に見れども飽かず 神からならし」の歌にあるように夏でも立山にみる雪について詠っている。

家持が5年間過ごした越中との名残惜しい別れが次の歌にあらわれている。「しなざかる 越に五年 住み住みて 立ち別れまく 惜しき宵かも」また越中万葉には越中の食べ物もよく出てくることから、越中の食べ物に満足していたことがわかる。

最後に高岡市万葉歴史館では、小中高校生向けに出張パネル展示を実施しているので、生徒に万葉の世界に親しんでもらうために利用してほしい。

共学共育

—他校のPTA活動に学ぶ—

富山商業高校PTA

「子ども達とともに頑張るPTA」本校PTA役員は、顧問1名、会長1名、副会長16名、会計監査3名、委員25名の計46名です。企画、生活指導、広報のいずれかの委員会に所属し活動しています。

PTA定期総会は、出席者増を図るため、4年前から土曜日開催とし、公開授業や学年別懇談会も同時に行っていました。年々、参加者が増え、「子どもの学校での様子を知らることができてよかった。」との声が聞かれます。

毎年11月に約7千人が来場する模擬株式会社「TOMI SHOP」に、PTAは生徒の実習を支援するため、駐車場係として参加しています。今年も43名の保護者が生徒と協力し、富山大学等近隣5箇所で交通整理を行いました。



企画委員会では、子ども達の進路選択の一助となるよう保護者が大学や企

業を訪問する「PTA視察研修」を実施しています。保護者のアンケートに基づいて、今年度は富山国際大学と

富山大原簿記法律専門学校、(株)富士薬品を訪問しました。卒業生の生の声を聞くことができ、参加者からは好評でした。

生活指導委員会では、毎学期始業日からの生活指導週間で実施される「朝のあいさつ運動」に参加しています。教職員や生徒会執行部の生徒と一緒に、登校してくる子ども達に声をかけます。また、年2回の「さわやか運動」にも初日と最終日に参加し、子ども達と元気なあいさつを交わしています。

広報委員会では、1学期終業式と卒業式にあわせて、年2回「PTA通信」を発行しています。特集ページでは、子ども達や保護者の意識調査を実施し、「PTA通信」が有用な情報源となるよう工夫を凝らしています。

今後も子ども達が思う存分、検定資格取得や部活動に取り組めるように教職員と保護者が協力し、バックアップに努め、子ども・学校・家庭が三位一体となったPTA活動を続けていく所存です。

富山商業高校PTA会長

山崎 博史



高岡南高校PTA

「家庭・学校・地域の連携で
子どもの健全育成を目指す」

本校PTAの組織は、会長一名、副会長十一名、文化広報委員長一名、監査一名とクラス委員二十八名からなっています。各役員、クラス委員は、各学年委員会、文化広報委員会、生活指導専門部、保健環境専門部に所属し諸活動を行っています。

各学年委員会では、子どもの進路探求を保護者とともに共有するための研修会を企画し、学校側と協力しながら開催しています。特に、三年生では進路に関する研修のほかに、スクールカウンセラーによる講話を実施して、精神的に不安定にながちな子どもとの関わり方について学んでいます。



文化広報委員会では年二回の広報紙（七月と十二月）を発行するために企画、取材、編集などを行い、諸行事で活躍する子どもたちの様子を紙面で紹介しています。

生活指導専門部では、春と秋に実施している「さわやか運動」を中心

に、あいさつ運動や交通安全指導を行っています。そのほかに、地域安全パトロール運動にも積極的に参加し、地域の青少年健全育成に協力しています。

昨年度のことですが、本校生徒が雨のなかを下校していたところ、近隣の方が傘を貸してくださいました。翌日、その借りた傘を返しに来たときにお礼のプレゼントを添えてくれたと感心して学校に報告されました。地域の方との交流が深まったエピソードとしてうれしく思いました。

保健環境専門部では、子どもが健康で安全な学校生活を送るための共通理解を深められるように研修会を持ち、学校保健委員会にも話題提供をしています。

また、学校行事にも積極的に参加し、合唱コンクールでの審査員や学校祭での食堂・バザーを担当するなど、子どもたちと一緒に活動しています。

今後も学校や地域の方々と連携、協力しながら子どもたちの明るく、楽しい学校生活の一助となるよう取り組んでいきたいと考えています。

高岡南高校PTA会長

塩崎 吉康



小矢部園芸高校PTA

「地域とともにそして子どもたちの成長のために」

本校PTA役員組織は会長・副会長など十一名の幹部役員とクラス役員からなっています。

主な行事は五月「農業クラブ校内意見発表会」の審査、六月と十月「高校生さわやか運動」・六月から十月までの期間「砺波地区生徒生活指導委員会小矢部支部巡視」・十一月農産物即売会の「遊休品バザーと模擬店」です。

「農業クラブ校内意見発表会」や「課題研究発表会」では、PTA役員も審査に加わり、「PTA特別賞」を授与しています。「さわやか運動」では、特に地元の小中学校のPTA役員と一緒に運動を行っています。「砺波地区生徒生活指導委員会小矢部支部巡視」では、砺波地区内の高校に通学している小矢部市在住生徒の保護者による巡視活動で、花火大会や盆踊り大会などのイベント会場やパチンコ店やコンビニ・レンタルショップなど巡回し、防犯活動を行っています。農産物即売

会の「遊休品バザーと模擬店」について、模擬店は昨年度、「特色あるPTA」の助成によりおでんを作り提供しました。今年度はJA青壮年



部の協力を得て「米粉の焼きドーナツ」を作り販売したところ、好評で午前中に完売しました。小麦アレルギーの心配がいらぬ米粉を理解していただくとてもよい機会となりました。

今年度は、JA青壮年部の協力依頼を受け、小矢部市制五十周年イベントに合わせたモニユメント作りに取り組みました。これまで永く学校が支援を頂いている小矢部市という地域に対し感謝の気持ちを込めて生徒とPTAが協力しました。学校でサルビアやマリーゴールドなどの鉢花を栽培して頂き、それらを生徒とPTAでクロスランドタワー前広場に並べて、市のゆるキャラ「メルギューくん」を描きました。高さ百mのクロスランドタワー展望台から観るモニユメントは、多くのお客さんに感銘を与えました。その作品は、富山県JA青壮年協議会開催のコンクールで最優秀賞を受賞しました。



さらに、生徒のためにPTAとして教育活動にできることがないかを探るため、十二月に「生徒とPTAの懇談会」を開催し、学校行事・学校生活・部活動・地域活動などについて協議しました。生徒の活発な発言により、具体的な提案も出され、今後のPTA活動に活かしていきたいと思っています。

小矢部園芸高校PTA会長

岡本 茂男

新年度県立学校の教育振興を 知事に直接要望する

県高P連では1月10日、毛利会長と、林副会長・榊田副会長・北野副会長・中田副会長・加藤副会長の6名が、県庁に石井隆一知事を訪ね、以下の4項目を重点に新年度県立学校の教育振興を要望しました。

①県立学校教育振興計画の着実な推進

全ての県立学校教育の振興充実
探究科学科、科学オリンピックへの支援

②特別支援教育の充実

高等特別支援学校の充実
高等学校における特別支援教育の推進

③高校生徒指導等の充実

不登校やいじめへの対応

④耐震化の推進

これに対して、石井知事は、財政厳しい中ではあるが、人づくりは大切であり、次代を担う中心は若い人達なので、教育の振興については充実していかなければならないとして、次のような回答をいただきました。

①・②県立学校の振興充実、及び特別支援教育の充実については、従来もしっかりとやってきたつもりであるが、本年の雄峰高校の移転改築もあるので、全日制普通科はもちろん、定時制・通信制教育、それから特別支援学校の充実についてもしっかりと取り組んでいきたい。

③高校生徒指導等の充実については、いじめは富山県では実態として増え続けているということではないが、いじめや不登校をなくすために引き続き努力していきたい。そのため、スクールカウンセラーの充実や高校へのスクールソーシャルワーカーの派遣が要望されている。

追記
新年度当初予算では、重点要望の全項目について、厳しい財政状況の中、格段のご配慮をいただきました。知事には心からお礼申しあげます。



毛利会長から知事に要望書を提出



知事応接室にて

るが、現場の声も聞きながら、今後も配慮していきたい。
④耐震化の推進については、東日本大震災の発生を受けて、前倒しで平成27年度には耐震化が完了できる体制になっているので、しっかりと実施していきたい。

このほか、意見交換の中で、学校教育の充実や教育の変革についての意見、新幹線開通後の高校生の通学手段である並行在来線運賃への配慮の要望などが出されました。

平成24年度の主な事業

4月26日	23年度第4回理事会
5月15日	第1回幹事会
6月5日	定期総会・第1回企画広報委員会兼第1回理事会
6月12日	第1回生徒生活指導委員会
6月中下旬	地区PTA指導者研修会
6月26日	第1回家庭教育委員会
7月6・7日	北信越地区高P連研究大会(富山市)
7月12日	第1回会報編集委員会
8月23・24日	全国高P連大会(和歌山市)
9月20日	第2回企画広報委員会
9月25日	第2回理事会
9月27日	第2回家庭教育委員会
10月16日	第2回生徒生活指導委員会
10月23日	県高P大会・指導者研修会
12月6日	第2回会報編集委員会
1月10日	新年度教育関係予算の充実に要望
2月14日	第3回企画広報委員会
	第3回理事会

編集後記

平成24年度の県高P連の活動は、毛利会長をリーダーに家庭教育と学校教育の充実と連携を推し進め、富山から北信越各地へ情報発信が出来た一年であったと思います。今後も時代に即した活動で発展していければと思います。

終わりになりましたが、今年度の会報発行に際し、多くの会員の方々にご協力いただきました。ありがとうございました。

(会報編集委員長 松田 学)

表彰受賞団体
泊高等学校PTA 会長 水野 弘

平成24年優良PTA文部科学大臣